

1 新型コロナウイルス対策

- ・生徒、教職員ともに、自ら健康状態を把握して健康管理を徹底するとともに、校外で感染リスクの高い行動を控える。
- ・感染拡大状況に応じた活動の制限をあらかじめ設定し、感染拡大防止に努めながら創意工夫して教育活動を行う。
- ・臨時休業になっても学びを保障できるよう、Google Workspaceやスタディサプリを活用した指導方法を確立する。
- ・様々な取組について、緊急性や重要性、有効性を判断し、優先順位を考えて、必要な場合は中止や延期を行う。

2 自ら学ぶ力の育成

- ・1年次生においてChromebookを活用した授業や家庭学習等の指導に取り組み、その成果を他の年次の指導にも活かす。
- ・新学習指導要領の3観点の評価について研究を深め、指導と評価の一体化を図るため、評価の観点を取り入れた学習指導案をもとに公開授業を行う。
- ・「総合的な探究（学習）の時間」において、社会に存在するさまざまな「境」を越える活動を主体的かつ協働的に行い、自己効力感を高めるとともに将来の自己の在り方や生き方を考えさせる。

3 自ら律する力の育成

- ・全体計画に基づき、各教科や特別活動をはじめとする全ての教育活動を通じて道徳教育を推進する。
- ・基本的な生活習慣を確立する指導に取り組む。また、保護者との連携を密にし、学校と家庭一体となって生徒指導を行う。
- ・「命」の尊さを感じさせる取組や新型コロナウイルス感染症に関わることなどの人権教育の充実を図る。また、いじめや体罰、虐待を見逃さないよう、生徒の小さな異変に早期に気づく体制を充実する。
- ・部活動について、「日吉ヶ丘高校部活動運営方針」を遵守した年間計画や月間計画を策定し、感染防止対策を徹底して指導に当たる。

4 進路希望の実現

- ・3年間の学びで身に付けた表現力や発信力を活かして、総合型選抜や推薦型選抜でも合格できるよう、個々の進路希望に応じて全校的な体制で指導する。
- ・学力到達目標（指導目標）を設定して学習指導を行い、模擬試験をチェックポイントとして、基礎学力の定着と授業改善についてのPDCAサイクルを確立する。
- ・生徒一人一人の進路目標と状況を適切に把握し、模擬試験などのデータに基づいた課題設定など、個に応じた進路指導の充実を図る。
- ・Google Workspaceやスタディサプリを授業や家庭学習に活用し、振り返りや見直しを通して、学びを深め自学自習できる力を育成する。

5 国際教育、広報の充実

- ・HELLO Village（英語村）を英語教育・国際理解教育だけでなく、主体性や発信力の育成の拠点とし、将来、真の国際人となるために、日本や京都の伝統・文化、優れた科学技術を学ぶ取組を充実する。
- ・三菱みらい育成財団「心のエンジンを駆動させるプログラム」を活かして、これまでのさまざまな活動を体系化したりプログラム化したりする。
- ・ICTの活用や国際教育の推進を中心に、魅力ある教育を学校説明会やホームページで広報する。

6 新教育課程の実施体制の確立

- ・進学型単位制高校としてのスクールポリシーを確立し、全ての生徒が進路希望を実現できる教育課程を編成するとともにその実施体制を確立する。
- ・学校設定教科「越境」を設置し、1年次必修科目の「越境ベーシック」を中心に、生徒が主体性を育むとともに自己効力感を高め、自己の学力を伸長することができる力を育む。